IATSS NEWS
学会通信 国際交通安全学会

■平成28年度研究調査報告会／学会賞贈呈式を開催
■IATSS Research Vol. 41, Issue 1発行

平成28年度研究調査報告会／学会賞贈呈式を開催

2017年４月14日（金）、経団連会館（東京・大手町）にて、平成28年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに第38回国際交通安全学会賞贈呈式を開催しました。

研究調査報告会

平成28年度に行われた研究調査の中から５テーマが報告され、約230名の参加者から高い関心と評価が寄せられました。

各テーマの概要は次の通りです。

【テーマ１】アクセルとブレーキの踏み違いに関係する高齢者の認知・行動特性の分析

本プロジェクトは、社会的注目を集める高齢ドライバーによる踏み違い事故の実態を解明し、加齢変化と事故の関連性を明らかにすることを目的とし、事故事例・事故統計分析による実態解明、加齢変化する認知機能と踏み違いの関連性の検討、実際のペダル操作行動と踏み違いの関連性検討を行っている。

事故事例分析として、被疑者供述調書にある供述内容の分析を行い、「慌て」「焦り」「漫然」等の心理的要因、「足のずれ」「身体方向の変化」等の身体的要因が抽出され、踏み間違いに至るプロセスを整理した。また実車を使ったペダル操作の実態調査、タクシー会社での実態調査から、運転姿勢や認知機能変化に問題があることが明らかになった。さらに抑制機能の加齢変化に注目した研究から、この機能がペダル操作の不適に関係する可能性を解明した。さらに、脳波を用いた踏み間違いに関連する認知機能評価研究、ペダル操作時の足の動きやペダル間距離と踏み間違いの関係について検討を行った。

【テーマ２】カンボジア王国プノンペン市における交通安全向上に関する実証的研究 ー若年層を中心としたソフト面への視点ー

近年のカンボジアでは急速な経済成長に伴い、交通をめぐる環境も劇的に変化しているが、道路利用者の規範意識の低さや運転技能の未熟さが、急増する事故や渋滞の大きな原因として指摘されている。

本研究では、特に都市部におけ

る若年層の深刻な交通事故状況に注目し、プノンペン市の高校生・大学生の交通に関する規範意識調査（質問紙）、二輪車の運転行動調査（録画）を実施し、危険認知度と実際の運転挙動の関係性を分析することにより、その特性・傾向を明らかにした。

また、運転行動調査動画をもとに危険予測訓練ビデオクリップを作成し、「プノンペンにおける若者の交通安全向上」ワークショップを通じて日常に潜む危険な交通状況への気付きと自らの運転行動の振り返りを促した。さらに、交通と安全に関わる省庁・団体とも連携を図ることにより、現地の交通安全向上に貢献すべく活動を展開した。

【テーマ３】通学路Vision Zero －通学路総合交通マネジメントの提案に向けて－

本研究は、まず「通学路の交通事故死者ゼロ」という目標を掲げ、それを端緒として、市街地の交通事故をゼロにすることを目標とするものである。

平成24年以降、「通学路交通安全プログラム」が全国でほぼ実施済みの状況とはなっているが、対策内容や対策プロセスが確立していない中、必ずしも効果が上がっているとは言えない。本プロジェクトでは、これまでそれぞれの関係が明確になってこなかった通学路、スクールゾーン、交通規制、および周辺のまちづくりや物理的デバイスの利用方法などを統合する「通学路総合交通マネジメント（仮称）」を提案する。新潟市における通学路交通安全対策の一連の取り組みを通して「通学路総合交通マネジメントガイドライン（案）」を作成し、現在、これを活用して、沖縄県浦添市の通学路安全プログラムと連動した取り組みを進めている。平成28年度には、さらに、通学路の事故特性の分析、対策実施箇所の優先順位付け手法、通学路用ライジングボラードの公道導入の検討を行った。

【テーマ４】運転行動に影響を与える交通・安全文化に関する国際比較 －訪日観光客のレンタカー利用急増に伴う交通事故リスクの把握と軽減方策の提案－

本プロジェクトは、急増する訪日外国人観光客の自動車運転需要の高まりに伴う交通事故リスクの把握と軽減方策の提案を目的としている。近年、北海道や沖縄などの観光地においては、わが国とは異なる運転慣習をもつ外国人運転者の交通違反や交通事故が増加している。また、東京オリンピックが開催される首都圏や京都･大阪･神戸に跨る広域的な観光資源を擁する関西圏においても、訪日外国人による交通事故リスクが懸念されている。

こうした問題に対して、本研究ではまず警察庁の国籍別交通違反および事故データを用い、事故につながる運転慣習の特徴付けを行っている。さらに、レンタカーを対象とするETC2.0社会実験の挙動履歴データを活用し、観光地における各国運転者の危険運転場所を抽出し、国籍別比較を行っている。また、関西国際空港において、訪日中にレンタカーを利用した外国人を対象に運転時のヒヤリハット体験を調査し、運転者の特性を重視したクラスター別対策の方向性を提案している。

【テーマ５】自動車の自動化運転：その許容性を巡る学際的研究

自動車の自動運転は、各国が競ってその実現を図っている重要な政策課題である。日本でも、政府が、世界の潮流に沿って、自動運転のレベル分けを行い、レベル３以上の自動運転の公道での実現を目指し、さまざまな政策を打ち出している。例えば、警察庁の公道実験に係るガイドラインに沿って、今や日本各地で積極的に実証実験が繰り返されている。

その一方で、自動運転の実現を図るには、なお多くの問題が山積みしている。第一に、レベル３以上の自動運転は、条約の改正無しに認められるのか、第二に、レベル３以上の自動運転を受け入れる準備が社会に存在するのかが、問われる。第二の問題は、自動運転の社会的受容性という重要かつ深刻な課題であり、本研究では、自動運転の走行により事故が生じた場合に、誰がどのような法的責任を問われる可能性があるのかという点から、この受容性に係る状況を検討した。その過程では、これと同様の観点から実走実験を行っている海外の先進事例も調査・検討した。本研究は、こうして、自動運転の社会的受容性を高めるための条件作りにつき提言を試みるものである。

学会賞贈呈式

本年度は、業績部門において１件が選ばれました。なお、著作部門および論文部門については、残念ながら該当がありませんでした。

業績部門

受 賞 者：富山市

業績題目：公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりの展開

受賞理由：富山市では、「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、文化等都市の諸機能を集積させるこ

とにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策目標とし、中心市街地に加えて点在する地域の拠点を「お団子」に、公共交通を「串」に見立てた「お団子と串」の都市構造を目指した。「お団子」の形成のためには、「中心市街地活性化基本計画」と「まちなか居住推進計画／公共交通沿線居住推進計画」を策定し、「串」の形成には「公共交通活性化計画」を策定し、市内電車の環状線化や路面電車の南北接続など、LRTネットワークの積極的形成にわが国でいち早く取り組むとともに、新駅の設置、バスの再編などによる利便性向上、駅前広場やパークアンドライド駐車場の整備などによる交通結節点整備など、複数の施策を効果的に導入した。

中心市街地については、北陸新幹線開業を契機に富山駅とその周辺の整備を行うとともに、コミュニティバスの運行、自転車市民共同利用システムの導入を図った。中心商業地区における全天候型広場空間を整備し、イベントを実施することで、賑わいを創出することに成功し、活気あるまちづくりへの取り組みに対して「まちなか活性化事業サポート補助金」を交付し、中心部で降車すれば市内どこからでも運賃が100円となる高齢者を対象とした「おでかけ定期券」を発行することにより、中心市街地への来街促進施策を意欲的に展開した。

また、都心で花を購入して路面電車に乗車すると運賃が無料になるといったユニークな取り組みも行い、花のあるまちとして明るく潤いのある空間を創出した。

メリハリある政策を10年弱の間に具現化し、スピード感ある戦略的展開とその効果は、同様の問題を抱える地方都市におけるまちづくりの模範を示すものとして、高く評価される。

IATSS Research Vol. 41, Issue 1 発行

IATSS Research Vol. 41, Issue 1が発行されました。

Elsevier Ltd.のサイトより、無償で全掲載論文のダウンロードが可能です。

►http://www.sciencedirect.com/science/journal/03861112/41

I.P. Meel, U. Brannolte, D. Satirasetthavee, K. Kanitpong
Safety impact of application of auxiliary lanes at downstream locations of Thai U-turns

Haneen Farah, Carlos Lima Azevedo
Safety analysis of passing maneuvers using extreme value theory

Mingwei He, Shengchuan Zhao
Determinants of long-duration commuting and long-duration commuters' perceptions and attitudes toward commuting time: Evidence from Kunming, China

Raghunathan Rajesh, R. Srinath, R. Sasikumar, B. Subin
Modeling safety risk perception due to mobile phone distraction among four wheeler drivers

Godfrey Mwesige, Haneen Farah, Umaru Bagampadde, Haris Koutsopoulos
Effect of passing zone length on operation and safety of two-lane rural highways in Uganda

Carolina P. Castañeda, Juan G. Villegas
Analyzing the response to traffic accidents in Medellín, Colombia, with facility location models